

# モノのみを追う工学 から、心の豊かさを 追う工学へ

足利工業大学 学長 牛山 泉

取材文／堀水潤一 撮影／渡辺まこと



【学長プロフィール】1942年生まれ。上智大学大学院理工学研究科博士課程修了。2008年より現職。政府エネルギー関連委員会委員長、日本風力エネルギー協会会長、日本太陽エネルギー学会会長などを歴任。自然エネルギー研究の世界的権威で風車研究の第一人者。  
【大学プロフィール】足利実践女学校（1925年設立）を前身として1967年に開学。工学部に機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科、建築学科、都市環境工学科。付属機関として総合研究センター、睡眠科学センターなど。

工学の目的は、技術を通して世の中に幸せをもたらすことですが、社会のニーズは大きく変化しています。これまでの工学は、20世紀の物質文明的な生き方といつてもいいでしょうが、ひたすらモノやカネを追いかけてきました。しかし、今や環境の世紀。心の豊かさが求められる時代です。目に見えるモノだけを追いかけたところで満足は得られません。今は、目に見えないものへの視点、例えば、地球環境、生命や健康、国際貢献や地域貢献などにも関心が高まっています。

その点、本学は風力発電を中心とした自然エネルギー研究教育で世界をリードし、途上国のエネルギー問題にも貢献してきました。例えば機械工学科の中條祐一教授が開発するソーラークッカー（太陽光調理器具）つあれば年間何トンもの薪が節約できます。私も現在、太陽電池と小型風車を組み合わせた携帯式発電装置の開発に取り組んでいます。それがあれば途上国の無電化地域はもちろん、災害時にも役立ちます。

自然エネルギー分野以外にも、睡眠研究や花火にかかわる学問、煙火学なども日本のトップクラスにあり、こうした本学ならではの研究教育活動をもっと

強く打ち出していこうというのが私の方針です。現在の5学科を1学科に集約し「自然エネルギー環境学系」「生命システム学系」などの新しい学系を加えて再編する計画もその二環です。

こうしたオンラインワンの活動は人をひきつけます。世界中から優秀な人材が集まってくる。本物の研究であれば、無理に「かき集め」なくとも、人は「かけ集まる」のだと信じています。実際、風力セミナー等では第一線の研究者が全国から集い、学生は大いに刺激されます。地方の単科大学でありながら、各種就職ランキングで上位に位置するのもそうした点と無縁ではないでしょう。

足利の寺院組織によって創設された本学は、聖徳太子の「和を以て貴しと為す」を建学の理念としています。こうした背景は、工学を学ぶうえでとても大切です。工学は実学ですが、実だけを追うと環境問題のようなひずみをもたらしかねません。副学長と共に、学横断型の教養科目を担当し、本学で学ぶことの意義や、工学のあり方について熱を込めて語るのも、その大切なことを伝えるためです。これからも「心あるエンジニア」の育成に努めていきたいと思っています。